

転落防止柵の隙間対策について

工 事 名	令和3年度 関川・姫川維持管理工事
工 事 場 所	関川・姫川直轄管理区間
会 社 名	北陸パブリックメンテナンス(株)
発 表 者	立入 公德

1 はじめに

本工事は、関川・保倉川及び姫川の直轄管理区間において、軽微な補修対応や出水時の河川巡視、災害対策車両の出動、訓練、保守管理を主に年間を通して作業を行うものである。今回は転落防止柵更新工での隙間対策について事例を報告する。

2 概要（現場状況）

関川右岸0.6k堤防通路に設置の転落防止柵を更新するにあたり、既設の転落防止柵はコーナーで間隔が開き、その隙間をチェーンで処置されていた。写真-1



写真-1

また、勾配のある場所でも間隔を開けて設置していた。写真-2
今回、隙間を作らず一連で施工できないか支柱の低減を含め検討を行った。



写真-2

3. 方法（自在金具の使用）

市場調査から転落防止柵として道路等で実績のある角形鋼材を利用した自在金具を利用することとした。

自在金具の特徴

1. コーナーと勾配のどちらにも対応できる。写真-3
2. 複雑な構造にもコーナー支柱1本で対応できコスト的にも縮減できた。図-1

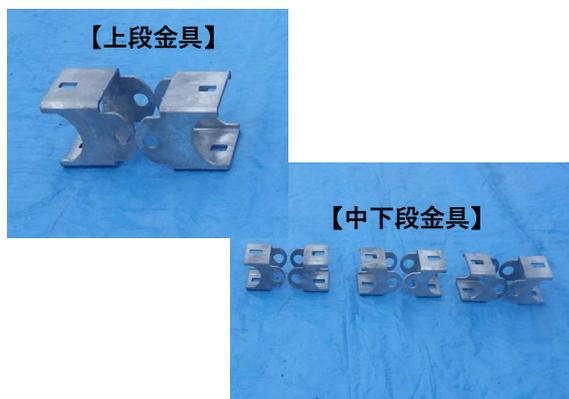


写真-3

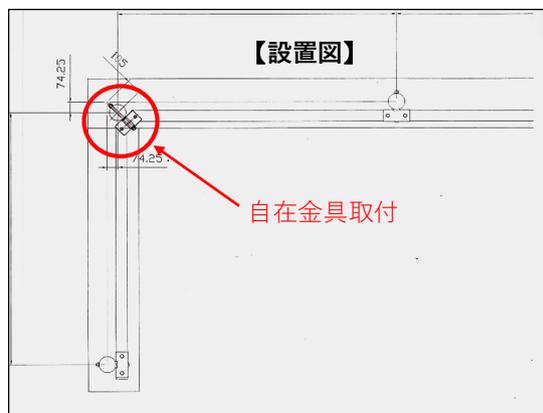


図-1

4. 結果

1. 自在金具の使用で角度のあるコーナーも間隔を開けずビームパイプを取付けられた。写真-4
2. コーナーを支柱1本で対応でき、隙間を作らず一連で設置できた。写真-5



上段金具



中下段金具

写真-4



写真-5

5. 考察

一連の施工で、支柱の削減により隙間をなくす事ができ利用者の安全性の向上とコスト縮減を図ることができた。また、防錆対策として塗装品から亜鉛メッキ塗装とした。

今後も、現場状況に合った施工方法、材料選択に努めて行きたい。